

間伐材を利用した木製品モデルの試作

見尾貞治・竹林淳祐・中神照太

1. はじめに

県産針葉樹の間伐小径木の活用を目的として、新しいデザインや機能を備えた家具・調度品などの開発・試作を行っている。

ここでは、スギ・ヒノキの間伐材を利用した家具・調度品の試作例を示す。

2. 試作製品

1) スギの衝立

スギ間伐材から挽き出した板を利用して、会議室あるいは事務室などに使用する衝立を製作した。写真1のように4連で一式とした。大きさは、幅900mm、高さ1,800mmである。第1図に概略の寸法を示す。枠と足部にはヒノキ材を使い、全体を堅く引き締める効果をねらった。面材に使ったスギの板は、間伐小径木であることから節が多い。横使いにして、写真2、写真3のように、2タイプのスリットを入れた。辺材の白色と心材の淡いピンク色、節部の暗赤色にスリット、さらに採材順に幅が異なる板を並べたことによる色むらと不均一なスリット間隔などが相まって自然な調和が見られる。衝立全体としての安定感と軽さをもたすために、上部に縦格子を取り入れた。



写真1 衝立の全容

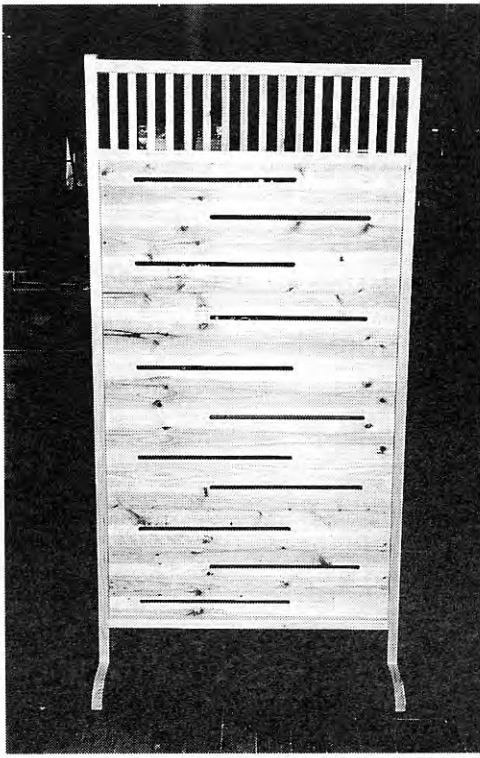


写真2 衝立 タイプ1

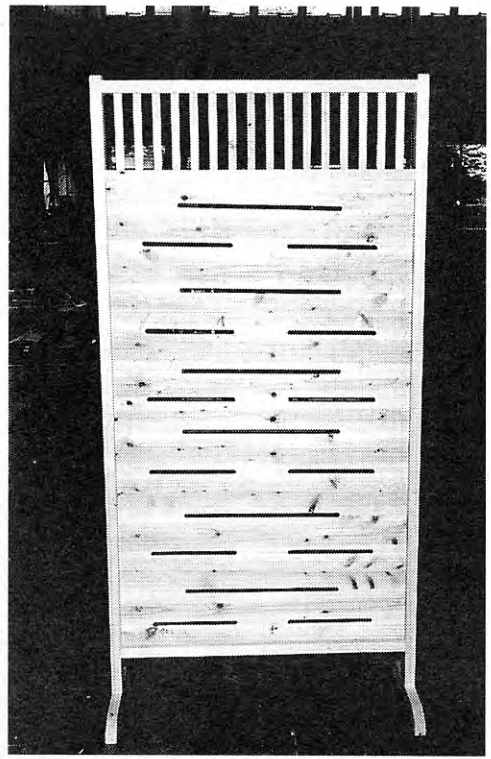
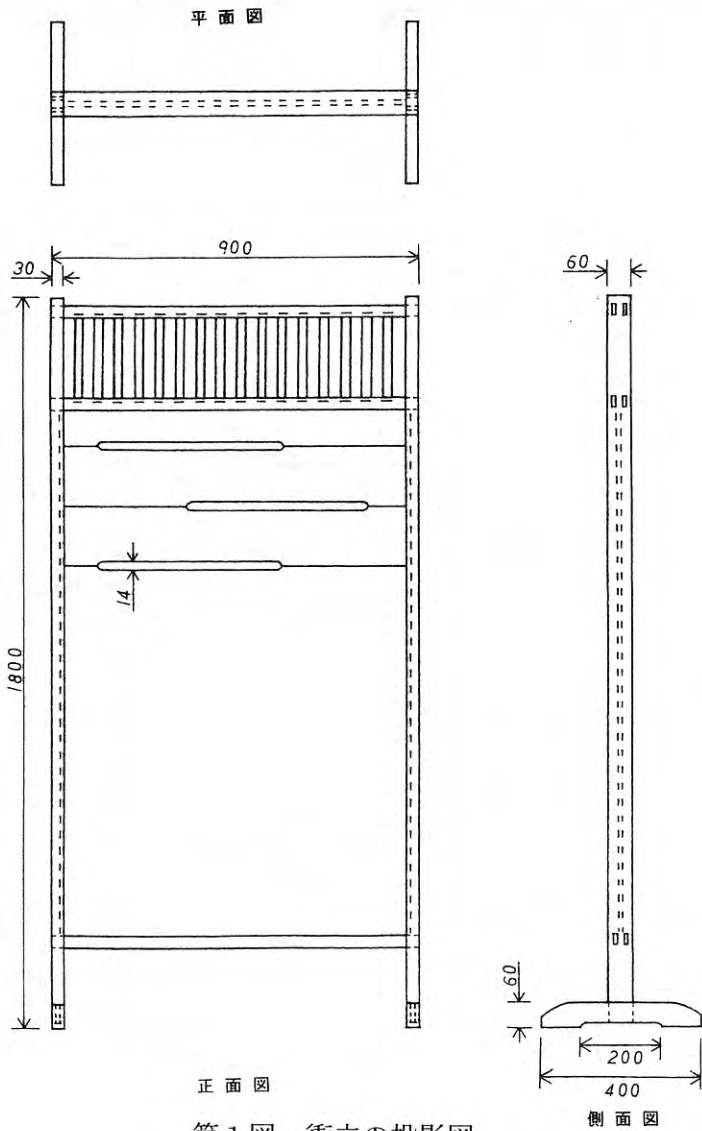


写真3 衝立 タイプ2



2) ヒノキの座机

ヒノキ間伐材による台形集成材を使って、写真4に示す座机を試作した。写真5のように天板の半分をはめ込み式にした。これにより、手軽にはずれる天板を膝上に置いて作業ができるという機能を求めた。ヒノキ材特有の光沢と直線的な仕上げから全体的に堅い感じがある。作業用机にふさわしい雰囲気を持たすことができた。素材が間伐材であることから、不規則に現れる節、不均一な辺・心材色や木目が木製であることの面白さを引き出している。寸法の概略は図2に示す。

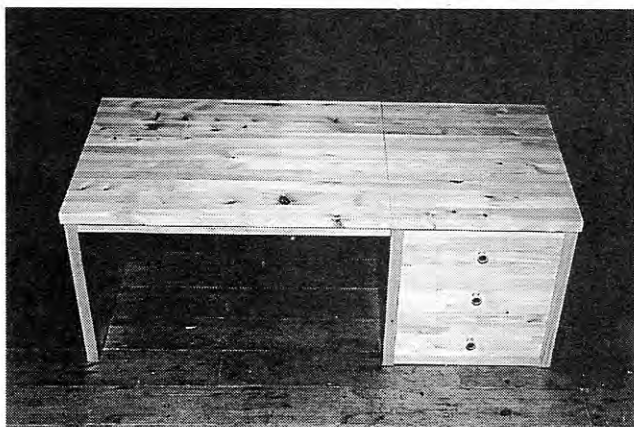


写真4 座机の全容

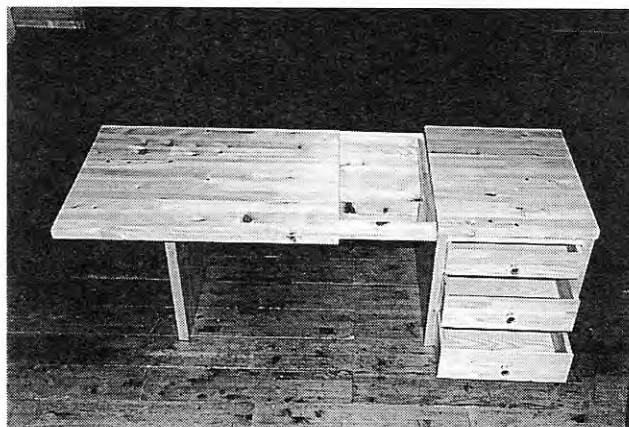
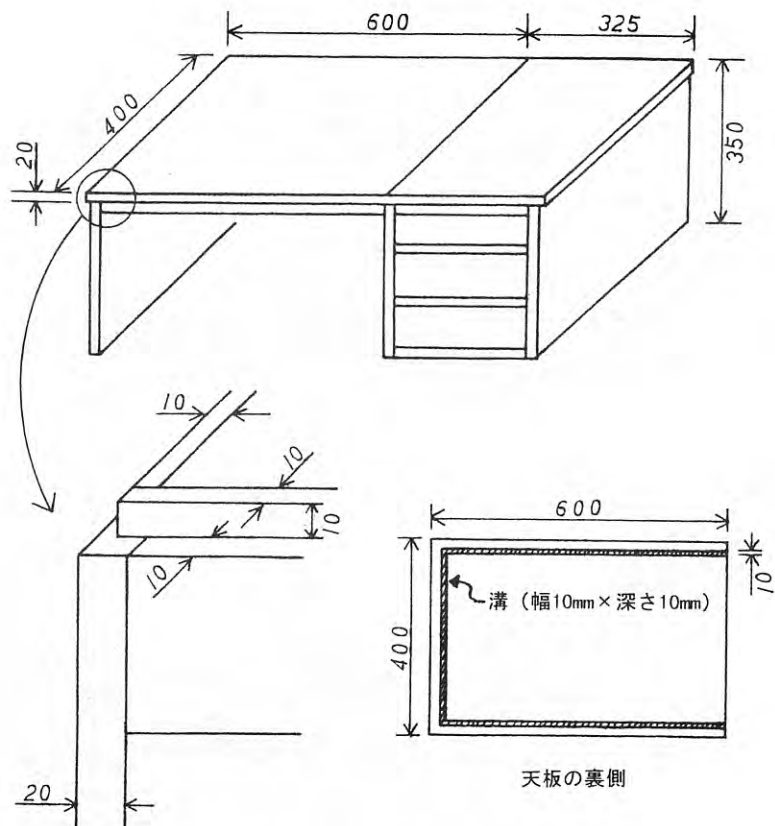


写真5 天板と引出の開放状況



第2図 座机の見取り図